

## ～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

### 【生物多様性の保全と持続可能な利用のために必要な里山活動】

鹿背山の里山は、集落を取り巻く里山林、農地、ため池などで構成され、人による適度な乱れにより特有の環境が形成・維持されることで、多くの野生生物を育む地域となっています。

里山の環境は、これまで地域の人々が農業生産や生活の場として利用することにより維持されてきましたが、燃料革命や営農形態の変化など社会経済の変化に伴う農地の利用の低下や、人口の減少や高齢化の進行に伴う農業者や集落の活力の低下により里山における人間活動が縮小してきたことで生物の生息・生育環境の悪化や衰退が進んでいます。

こうした背景を踏まえ、里山再生に取り組む、住民のボランティア団体による里山保全・活用の取り組みを、さとやま通信や市ホームページで紹介してきました。

また、将来に保全活用の担い手となる子どもたち

を対象に、里山学校を開校して里山活動や活動団体に関心を持ってもらい、活動に参加してもらう取り組みを進めてきました。

今後は、里山の土地所有者と市役所との管理協定の締結による持続的な管理や市民への公開などの取り組みを推進し、生物多様性の保全のためには、自然や希少種など限定的な自然の保護という考え方から持続可能な利用を図るという考え方へ拡大していく必要があります。

今後、重点施策の方向として①保全の強化、②自然再生、③持続可能な利用の3点があげられますが、今月は里山の資源を有効に利用する活動を紹介します。

### 里山の活用



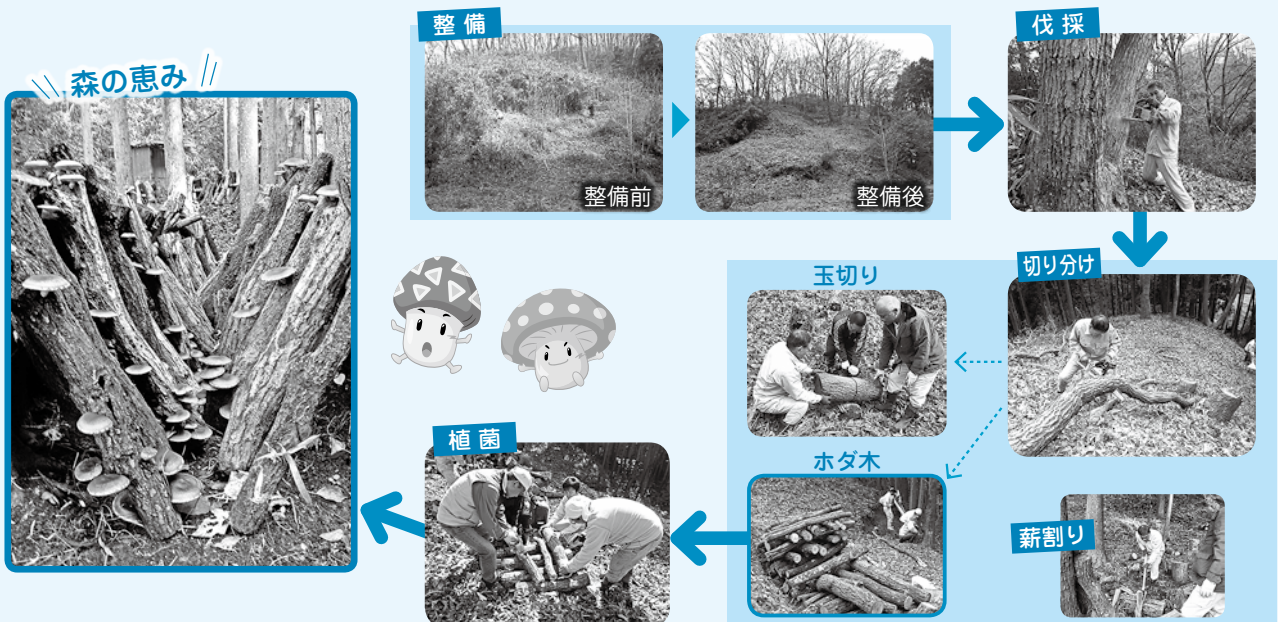
### 【里山活動】

放置された里山林は、下草が刈られなくなった結果、背丈を越えるまでに篠竹が繁茂し、伐採期を越え大径木になったクヌギやコナラの根元まで辿り着くことができず、伐採もままなりません。

まずは、篠竹の刈り込みから進めます。

伐採木周辺の整理が終わればいよいよ伐採です。伐採木の幹は玉切りして、枝はほだ木に切り分けます。ほだ木に椎茸菌を植菌して一年後の収穫を待ちます。

車が通れる道がないので持ち出しは一苦労ですが、乾燥させれば薪ストーブの燃料になります。



### 【里山へGO！（里山活動に参加してみよう）】

鹿背山で活動する団体の里山活動を体験してみたい方や参加してみようと思われた方は、気軽に連絡してください。

木津北地区保全推進室（都市計画課内） ☎ 75-1222 ✉ kizukita@city.kizugawa.lg.jp